

## 第6回日本保育園保健学会プログラム

日 時：平成12年10月28日（土）・29日（日）

会 場：なかのゼロ大ホール（東京）

会 頭：埴 賢二（日本保育園保健協議会顧問）

メインテーマ：「微症状からみた保育」

（第1日目）10月28日（土）

一般演題Ⅰ 保育A

座長 佐藤由美子

（1）乳幼児健康支援サービス・エンゼル多摩の開設4年目の利用状況について

清水 晃<sup>他</sup> 川崎市 清水小児科クリニック

（2）保育園と保護者が嘱託医に望むこと

小國龍也<sup>他</sup> 大阪小児科医会PC部会

（3）極低出生体重児の保育園における育児および発達支援のあり方について—事例を中心に—

安藤朗子<sup>他</sup> 母子愛育会愛育病院

一般演題Ⅱ 保育B

座長 北野久美

（4）北海道および札幌市における保育園児、幼稚園児の「遊び」に関する調査研究

本間美知子<sup>他</sup> 北海道 教育

（5）保育園における助産婦の役割

山口いづみ 静岡県 助産婦

（6）日本語で意志疎通の出来ない子どもの心の健康への援助

佐藤桃子<sup>他</sup> 中野区 保育士

（7）1日1回5分間のくすぐりタイム！ 乳幼児保育者への援助事例から（第13報）

角田春高 岡崎市 教育

教育講演「こころの微症状」

座長 高野 陽

辰見敏夫（東京学芸大学名誉教授）

会頭講演「かぜと紛らわしい乳幼児喘息の早期介入」座長 巷野悟郎

埴 賢二（日本保育園保健協議会顧問）

特別講演「保育行政について」

座長 巷野悟郎

清水美智夫（厚生省児童家庭局保育課長）

（第2日目）10月29日（日）

一般演題Ⅲ 感染症

座長 小國龍也

（8）前年度のインフルエンザを振り返って、今年度に向けての問題点

千葉昭典 足立区 千葉小児科内科医院

(9) 練馬区保育園児（0, 1歳）の耐性肺炎球菌, インフルエンザ菌の蔓延状況

飯島健志<sup>他</sup> 練馬区医師会保育園医会

(10) インフルエンザに対する医師の意識調査

古平金次郎<sup>他</sup> 東京小児科医会

一般演題Ⅳ 微症状

座長 高橋系一

(11) 保育園幼児に於ける微症状の基礎調査

伊藤和雄<sup>他</sup> 東京小児科医会

(12) 微症状を有する子に対する保育所における対応の現状

片桐真二<sup>他</sup> 大阪府医師会就学前児保健委員会

(13) 子どもの微症状とその後の経過についての検討

今井七重<sup>他</sup> 岐阜市 看護婦

一般演題Ⅴ 喘息・アトピー性皮膚炎・除去食

座長 隅田展廣

(14) 喘息児に対する音楽療法を用いた呼吸訓練

福田義子 八王子 音楽療法

(15) スキンケア用品の新しい皮膚刺激評価法

鈴木民恵<sup>他</sup> (株) ファンケル

(16) 除去食療法はいつごろから解除できるのか

伊東 繁<sup>他</sup> 帝京大学医学部小児科

特別講演「優しい言葉を心のひだに」

座長 埜 賢二

漆原智良（日本児童文学作家協会常務理事）

一般演題Ⅵ その他

座長 赤松正根

(17) 児童虐待の一事例をとおして

阪本こまの<sup>他</sup> 京都市 保育課

(18) 外傷による歯の破折・脱臼について

大島 修<sup>他</sup> 柏歯科医師会

一般演題Ⅶ 投薬

座長 松本寿通

(19) 練馬区の保育園における与薬システム作成について

小林光子<sup>他</sup> 練馬区 看護婦

(20) 園内与薬状況と嘱託医との連携

武藤明美<sup>他</sup> 新潟県 看護婦

(21) ガイドライン設定による保育所与薬

忍足美代子<sup>他</sup> 千葉市医師会保育所嘱託医部会

シンポジウム

座長 木屋和見

遠藤幸子

「子どもの微症状と保育の対応」

保育士の立場 佐々木妙子（慈愛会保育園 園長）

看護婦の立場 奈良平典子（高槻市立芝生保育所 看護婦）

嘱託医の立場 南部春生（日本保育園保健協議会副会長 嘱託医）

（討論）